

① 目立っ
② 川下
③ 雨上がり

④ ぐるま
⑤ ほんき

②
① しおり

②
③
⑤
② 完答
ア
ウ
イ

③ ママをこまらせ

④ ウ
⑤ 行く
⑥ ア

③
① オ
② カ
③ エ
④ ウ
⑤ イ
⑥ ア

④
①
②
③
① 完答
イ
ア
ウ
② ウ

③ アノールを

④ ア
イ
①
ウ
②

配点

① 各2点×5=10点

②～④ 各5点×18=90点

<計>100点

① 「目立つ」や③ 「雨上がり」は、二つのことばを組み合わせて一つのことばにしたものである。② 「下」にはいろいろな読みかたがあるので注意したい。④ 「うば車」という言い方は最近では耳慣れないかもしれない。ベビーカーのことである。「車」は「くるま」だが、ここでは「ぐるま」となる。⑤ 「本気で」は「真剣に」とほぼ同じ意味である。

② 1 「だれが」と「だれを」はまったくちがうことなので注意しよう。問題にことばを足せば、「だれがママを「こまらせた」のですか」となる。

2 ②に「いつも」が入るということは、「ママが先に家を出て、その後、しおりがかぎをかけて学校へ行く」ことが、きまりのようになっていくことである。③に「特に」が入るのは、学校に行きたくなくなるようなはつきりした理由があるわけではないということである。⑤に「結局」が入るのは、いろいろ話をしたりなだめたりしたけれども、最後には、ということである。

3 すぐ後ろに「リこんしたママが大変なことを、だれよりもよく分かっていたから」と書かれているので、ママに関係のある内容が入るとわかる。しかも、それはママのことを思っていることであるということもわかる。

4 すぐ前に「ママは、仕事を休んで、しおりといっしょにいてくれることになった」と書かれている。この「くれる」に注目する。〇〇してくれる、だから代わりに△△する、ということである。

5 「明日からはちゃんと⑦」ということは、今日はしていないことである。

6 「仕方がないので、昼間は近くに住んでいるばあばが来てくれることになった」と書かれているので、「仕方がない」の部分は、「ばあばが来てくれる」というやり方をするしかない理由を表している。

③ 体の一部がふくまれる慣用語からの出題。知らないものもあったかもしれないが、②・④・⑥は、例文を読めば、それぞれ「耳」「口」「足」に関係がありそうだと見当をつけられる。

① 「鼻でわらう」は、あいてを見下してふんとわらうこと。

② 「耳にはさむ」は、ちらっと聞くようす。

③ 「首を長くする」は、待ちきれないでいるようす。

④ 「口をすっぱくする」は、同じことを何度もいうようす。

⑤ 「頭ごなし」は、相手のいうことをきかず、一方的にいうようす。

⑥ 「手も足も出ない」は、自分の力ではどうすることもできないようす。

④ 1 「一方」は、何かを何かと比べて述べるときにつかう。「さて」は、これまでの話を受けて、次の話につなげるときにつかう。「さらに」は同じしゅるいの内容をつけくわえるときにつかう。

2 「うしろ足がイ いほうが……」は、前の行の「うしろ足がア かった」理由を説明しているところである。だから、アとイには同じことばが入る。ということは、答えはウである。

3 「一方、そのようなトカゲがいない島では」の「一方」は、前の段落と比べてちがっていることをこれから書くということを表している。前の段落は何の話だったかという点、「アノールを捕食する別のトカゲがいる島」での話であった。

4 アについて。「全部で700匹にまでふえた」という書き方だと、14の島のアノールトカゲの合計が700匹になるというように読める。しかし、本文に書かれていたのは「多い島では700匹にもふえていた」である。イについて。「天敵」ということは後ろから6行めに出てくる。そこからたどって読んでいくと、「アノールを捕食する別のトカゲがいる島では……うしろ足が長くなった」とはつきり書かれている。ウについて。「木登り」に関係のある話は、まず第3段落に出てくる。「もともとアノールトカゲは、茂みの中で、枝の上を走りまわりながら虫をつかまえるという生活をしている」とあるので、木登りに向いていないはずがない。最後の段落で言われているのは「長いうしろ足では」どうなるかという話である。